

長野県野尻湖における過去約4万年間の高分解能湖水面変動史

High resolution lake-level history of Lake Nojiri, Japan, during the last 40,000 years

井内 美郎 [1]

Yoshio Inouchi[1]

[1] 早大 人間科学部

[1] Human, Waseda Univ.

地球温暖化の顕在化と共に世界各地の水収支への関心が高まっている。水収支を示す指標のひとつとして、湖水位の変動がある。当初、湖水位の変動を引き起こすものとして日射量変動が注目された。その後、湖水位を変動させるものとして 偏西風経路のシフトや局地的な風のながれのシフトなどの変動が指摘されている。最近、湖水面変動データの時間分解能の向上と共に、ハインリッヒイベントや完新世氷河流出イベントなどの急激な寒冷期との関係が議論されるようになった。

今回報告するのは、水収支の情報が乏しかった日本列島のものである。これまで日本における水収支を示すものとしての湖水位データはまったく報告されておらず、唯一存在する花粉の情報では、かなり精度が良くないとされている。日本列島中央部の山岳湖沼において、連続性が良く、高分解能の湖水位変動を復元した結果、この地域における水収支が北西大西洋において明らかにされた急激な寒冷期との関係が明確になった。